

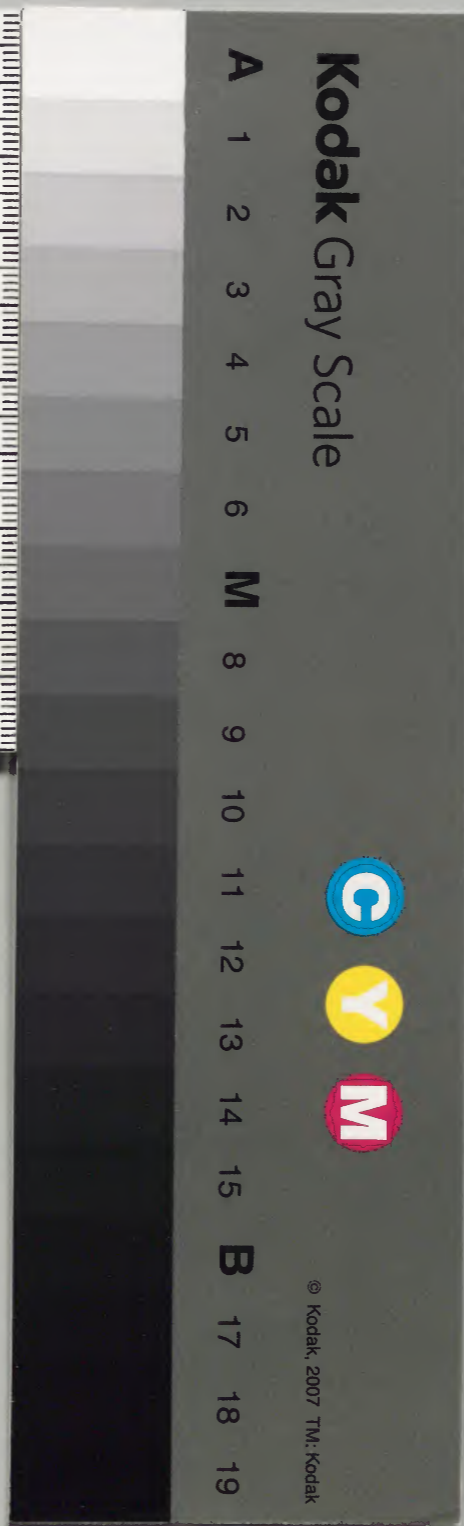
萬葉集略解

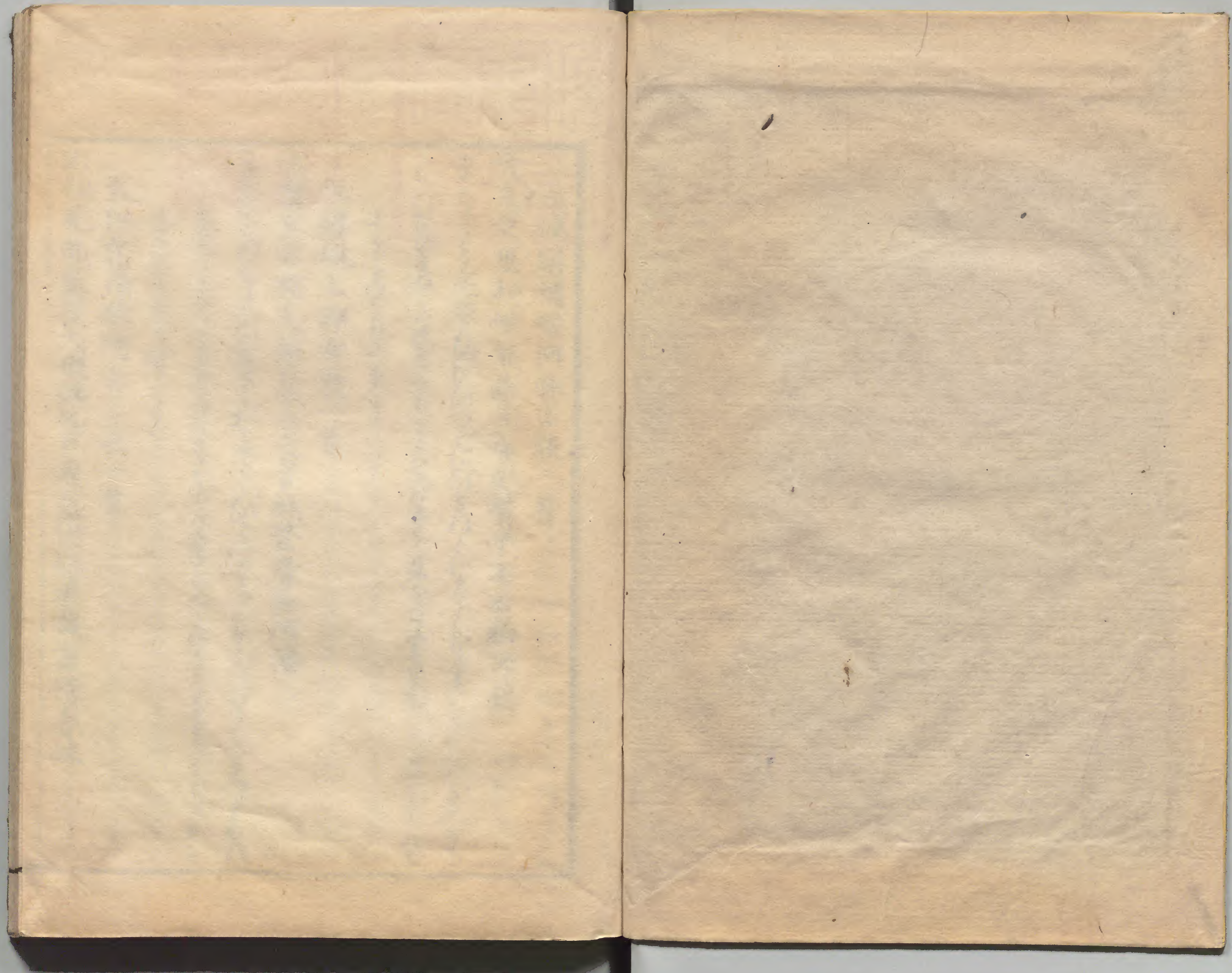
四下

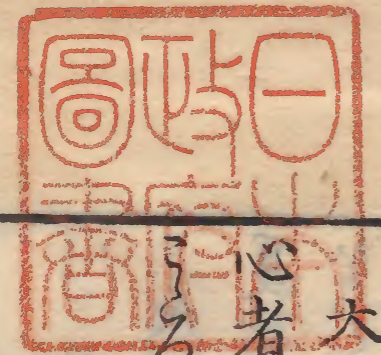
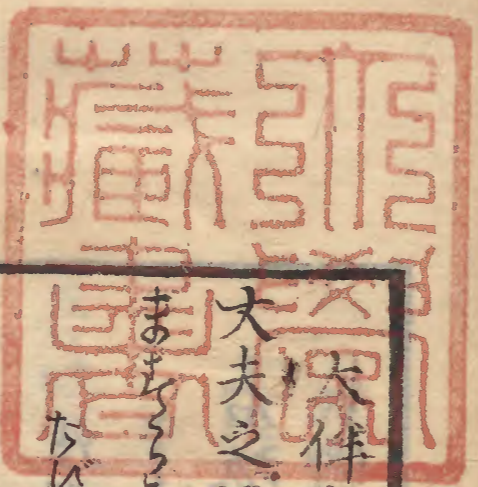
和書門			
二〇四	三六	五八	三二
類	號	函	架
冊	冊	冊	冊

內閣文庫			
二〇四	三六	五八	三二
和書	類	號	冊
冊	冊	冊	冊

內閣文庫	
番號	和 20436
冊數	32 (8)
函號	263 43







大伴宿禰駿河麻呂歌一首

大夫之思和備乍遍多嘆久嘆乎不負物可聞

まはらむの思ひわびたはまねくたぐくたをきこおはぬものも

たはまねくは波よいつまもつたけきをたほがむままきやとぬらうら

みうらみをとつたてしといへ

大伴坂上郎女歌一首

心者忘日無久雖念人之事社繁君爾阿禮

こころわすれぬくひなきながく念ひのこころを忘れきこふまあれ

たはまねくは波よいつまもつたけきをたほがむままきやとぬらうら

よのちくれぬ事ハ言へ

大伴宿禰駿河麻呂歌一首

不相見而氣長久成奴比日者奈何好去哉言借吾妹

あひみぎぞてけだるくたのめこのころにいふよるくやいぶのわき

大けぞくはらふ多くをこそよくとせくよけくつふよるくは平安ちち

やしゆんを年中輩くよりつよほど、新沖言まは在のほの、奇明紀好在ち

てまきくをんまやとよありといふ言信は信をこそいふつづのり

大伴坂上郎女歌一首

夏葛之不絶使乃不通有者言下有如念鶴鴨

なつくものたえぬつづきのよと久れこそよあさごとくねむいつるのも

室もさ夏は蔓のほろく、もよもこのたしんといふ、あまらつてく地何と

後ぞまもつ一使のこのころをりよびはつらやうよあつとん言はま

一と八郎翁

右坂上郎女者佐保大納言卿女也駿河麻呂此者高市

大卿之孫也兩卿兄弟之家女孫姑姪之族是以題歌送

万解四下

谷相問起居

佐保大納言の女麻呂大卿の孫麻呂

大伴宿禰三依離復相歡歌一首

歡々本歎くも、目深及之唐

あまよとくもくあつ

吾妹兒者常世國爾住家良思昔見從愛若益爾家利

わぎしこいとこよのくあまみかへし、しうみよりわのるまにけらこ

目深及之唐

大伴坂上郎女歌二首

久堅乃天露霜置二家里宅有人毛待戀奴盤

ひささののあめのつゆどもおまよなかり、いつたさしよまらこひぬら

つゆどもあまのつゆどもおまよなかり、いつたさしよまらこひぬら

らんおちなる人、後は麻呂の妻とりなむべ

玉主爾珠者授而勝且毛枕與吾者率二將宿

白くくきん寒いんのかふふより見れなきんし何べし信り行
考べしよむあふとせしりしちあはれとせきのかりの津一さ
まんまか二ういしあや

大伴坂上郎女歌六首

吾耳曾君爾者意流吾背子之意云事波言乃名具左曾
われのみぞきみふしあはれせこころあふこころのたふらさ
らふしあはれしつものんちとんちと知しつものんちとんちと
せんしつものんちと

不念常曰手師物乎翼酢色之寢安寸吾意可聞

わがしつものんちとんちと知しつものんちとんちと

天武紀十四年秋七月淨位以上並朱筆と著しありし朱筆
こころは波尻孺しりし信りし唐棣花と依り信りし

まをくはくはは孫まのわのむ并つらつらりんよもよめをす
一よもよめ或人と信りし梅とつ物とつらつらりんよもよめをす
もがしんもがしんしつものんちとんちと

雖念知僧裳無跡知物乎奈何幾許吾意渡

おしんしつものんちとんちと知しつものんちとんちと

僧ハ信の信やまべし

豫人事繁如是有者四惠也吾背子與裳何如荒海藻

あらうめしつものんちとんちと知しつものんちとんちと
まをくはくはは孫まのわのむ并つらつらりんよもよめをす
人のしつものんちとんちと知しつものんちとんちと
あしつものんちとんちと知しつものんちとんちと

汝乎與吾乎人曾離奈流乞吾君人之中言聞起名湯目

たをたひきしむらふらんぞのちかたはのちかたはのちかたはのちかたは
まじりてのちかたはのちかたはのちかたはのちかたはのちかたは
まじりてのちかたはのちかたはのちかたはのちかたはのちかたは
まじりてのちかたはのちかたはのちかたはのちかたはのちかたは
まじりてのちかたはのちかたはのちかたはのちかたはのちかたは
まじりてのちかたはのちかたはのちかたはのちかたはのちかたは
まじりてのちかたはのちかたはのちかたはのちかたはのちかたは
まじりてのちかたはのちかたはのちかたはのちかたはのちかたは
まじりてのちかたはのちかたはのちかたはのちかたはのちかたは
まじりてのちかたはのちかたはのちかたはのちかたはのちかたは

市原王歌一首

網兒之山五百重隱有佐堤乃堵左手繩師子之夢二四所
見

あゝのやまのひかりかぐせまのたのむかぢでまてうらたのたのたのたのたの
あゝのふつ志摩英虞那の山やまへへま六河は行宮も幸の村のまよ

万解四下 四

おくれうくうらめしく口派能坊とようん入宮をまき地は伊勢朝明郡
志氏神社ありとまを傍りてまをくくの佐堤の作の信れ待の信れ
くもまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

安部宿禰年足歌一首

まが安都やうべへ後紀慶雲元年二月後五位上上村五百濟と阿刀連
の姓と賜とまがき喜老二年五月阿刀連入是宿禰姓と物とまがき
ゆ年足とこれぞ

佐穂度吾家之上二鳴鳥之音長可思士愛妻之兒

まがわのわがまののくはなをまののちかたはのちかたはのちかたはのちかたは
大和の佐保と辰とまがきまがきまがきまがきまがきまがきまがきまがき
まがきのまがきのまがきのまがきのまがきのまがきのまがきのまがきのまがきの

大伴宿禰像見歌一首

後紀天平宝字八年十月正六位上大伴宿

祢形見授後五位下と云

石上零十方雨二將闕哉妹似相武登言義之鬼尾

いそののみよさうしあはふささうめいけふあんといひてそのを

いそののうも梅河くつあんとあよひあしはるのとはまんといひて

義ハ義の後なるもあしう

安倍朝臣蟲麻呂歌一首

後紀天平九年九月正七位上阿部朝臣虫

麻呂授外後五位下と云

向座而雖見不飽吾妹子二立離往六田付不知毛

むかいあてみれどもあはれがむこたふもわのれゆんだづまうらら

たけとらふも大伴坂とあ女へあよふもくあし

大伴坂上郎女歌二首

万解四下 五

不相見者幾久毛不有國幾許吾者意乍裳荒鹿

あひみぬはいくぢういしもあはれもふこくくはれはこひつもあが

戀戀而相有物乎月四有者夜波隱良武須臾羽蟻待

こひこひあひつるものをまきあはれはよこもらんまきあはれまき

あはれもこひの物はよこもあまこひせむねといふもあはれまきあ

せむとのまきまきのこひのこひもあはれまきあはれまきあはれま

きあはれまきあはれまきあはれまきあはれまきあはれまきあはれ

まきあはれまきあはれまきあはれまき

右大伴坂上郎女之母石川内命婦與安倍朝臣蟲滿之
母安曇外命婦同居姊妹同氣之親焉縁此郎女蟲滿相
見不踈相談既密聊作戲歌以為問答也

厚見王詞一首

後紀天平勝宝元年四月授無位厚見王後五位下と云

朝雨日雨色付山乃白雲之可思過君雨不有國

あさひけふいつつあまのきりぎりすのちかきりぎりすあまのあはれ

あまのあはれあまのあはれあまのあはれあまのあはれあまのあはれ

あまのあはれあまのあはれあまのあはれあまのあはれあまのあはれ

あまのあはれあまのあはれあまのあはれあまのあはれあまのあはれ

あまのあはれあまのあはれあまのあはれあまのあはれあまのあはれ

春日王歌一首 元 志貴皇子之子母曰多紀皇女也

足引之山橋乃色丹出而語言繼而相事毛將有

あひきのやまのしはせのいろぞかこひひびきあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

万解四下 六

湯原王歌一首

月讀之光二来益足疾乃山宇隔而不遠國

つきよみのひかりのよみよみあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

和歌一首 元 不審作者

月讀之光者清雖照有惑情不堪念

つきよみのひかりのよみよみあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

安倍朝臣蟲麻呂歌一首

倭女手纏數二毛不有壽持奈何幾許吾意渡

文ヲ又
ニ誤

まづいふ梅の毒に身のみちよと信れらるるをみとかりてかへん
吾身二字の信ちてけりてはまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
ぬ身はまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

大伴坂上郎女歌二首

真十鏡磨師心乎縦者後雨雖云驗将在八方

まろがみよまろがみよまろがみよまろがみよまろがみよ
まろがみよまろがみよまろがみよまろがみよまろがみよ
まろがみよまろがみよまろがみよまろがみよまろがみよ
まろがみよまろがみよまろがみよまろがみよまろがみよ

真玉付彼此兼手言齒五十戸常相而後社悔二破有跡五
十戸

まろがみよまろがみよまろがみよまろがみよまろがみよ

まもつて梅の毒に身のみちよと信れらるるをみとかりてかへん
吾身二字の信ちてけりてはまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

中臣女郎贈大伴宿禰家持歌五首

娘子部四咲澤二生流花勝見都毛不知意裳摺可聞

なみだぐりなみだぐりなみだぐりなみだぐりなみだぐり
なみだぐりなみだぐりなみだぐりなみだぐりなみだぐり
なみだぐりなみだぐりなみだぐりなみだぐりなみだぐり
なみだぐりなみだぐりなみだぐりなみだぐりなみだぐり
なみだぐりなみだぐりなみだぐりなみだぐりなみだぐり

とつてさきさきとてふくすをすまはるるのうらみ

海底奥乎深目手吾念有君二波将相年者經十方

わりのそとちまきとつてわがわんまきよあらんとはるぬと

細ははりてとらん料の

春日山朝居雲乃鬱不知人雨毛意物香聞

かすがのやまのあそびののちりしきわいしよよのそよよ

一二のちひなほしんるののちりしんるのちりしんる

直相而見而者耳社靈尅命向吾意止眼

たごあひてみてのこころしんるのちりしんるのちりしんる

あちちあちちあちちあちちあちちあちちあちちあちち

いづつとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

はれぬや

不欲常云者將強哉吾背管根之念亂而意管母將有

いなむいふまじきやわがせまのののちりしんるのちりしんる

わがせまののちりしんるのちりしんるのちりしんる

あんとくもあのみれ白

大伴宿禰家持與交遊別歌三首 目録より別のととのま

蓋毛人之中言聞可毛幾許雖待君之不来益

けしきいひのちりしんるのちりしんるのちりしんる

けしきいひのちりしんるのちりしんるのちりしんる

中々雨絶年云者如此許氣緒爾四而吾將意八寸

ちゅうちゅうあめとせんとしんるのちりしんるのちりしんる

ちゅうちゅうあめとせんとしんるのちりしんるのちりしんる

あちちあちち

あはれやいふ

愛常吾念情速河之雖塞々友猶哉將崩

あはれやいふこころをわすれぬやいふなほやいふれむ

あはれやいふこころをわすれぬやいふなほやいふれむ

あはれやいふこころをわすれぬやいふなほやいふれむ

青山乎横斂雲之灼然吾共咲為而人二所知名

あはれやいふこころをわすれぬやいふなほやいふれむ

あはれやいふこころをわすれぬやいふなほやいふれむ

あはれやいふこころをわすれぬやいふなほやいふれむ

海山毛隔莫國奈何鴨目言乎谷裳幾許之寸

あはれやいふこころをわすれぬやいふなほやいふれむ

あはれやいふこころをわすれぬやいふなほやいふれむ

さくら目輝しこゝろをぬくよちや

大伴宿禰三依悲別歌一首

照日乎闇爾見成而哭淚衣沾津于人無二

あはれやいふこころをわすれぬやいふなほやいふれむ

あはれやいふこころをわすれぬやいふなほやいふれむ

あはれやいふこころをわすれぬやいふなほやいふれむ

あはれやいふこころをわすれぬやいふなほやいふれむ

大伴宿禰家持贈娘子歌二首

百磯城之大宮人者雖多有情爾乘而所念妹

あはれやいふこころをわすれぬやいふなほやいふれむ

あはれやいふこころをわすれぬやいふなほやいふれむ

あはれやいふこころをわすれぬやいふなほやいふれむ

得羽重無妹二毛有鴨如此詩人情乎今盡念者

うんわもつばあふあふも。うんばる。ひよのころとつくもあひけ
ひよのころとつくあふをわう人か。うんわもつばあふも。うんばる。ひよのころとつくもあひけ
うんわもつばあふも。うんばる。ひよのころとつくもあひけ

大伴宿禰千室歌一首 未詳

如此耳憲哉將度秋津野爾多奈引雲能過跡者無二
かこのみこひやわ。うんあふもつばあふも。うんばる。ひよのころとつくもあひけ

むはゆか。改まむ。ちよまら。うんあふもつばあふも。うんばる。ひよのころとつくもあひけ
むはゆか。改まむ。ちよまら。うんあふもつばあふも。うんばる。ひよのころとつくもあひけ

廣河女王歌二首

後紀天平宝字七年正月無位廣河王授後五位
下とる。不破内親王よ次で歌られ。ひよのころとつくもあひけ

憲草呼力車二七車積而憲良苦吾心柄

こひのあふもつばあふも。うんばる。ひよのころとつくもあひけ
こひのあふもつばあふも。うんばる。ひよのころとつくもあひけ

憲者今業不有常吾羽念乎何處憲其附見繫有

こひのあふもつばあふも。うんばる。ひよのころとつくもあひけ
こひのあふもつばあふも。うんばる。ひよのころとつくもあひけ

石川朝臣廣成歌一首

後紀天平宝字二年八月後六位上石川
朝臣廣成授後五位下とるゆ

家人雨意過目八方川津鳴泉之里雨年之歷去者

とびよれしはまぎめやもかきつたもくづみのまもぞのくぬれば

きんこえやとくろ難きこゑ泉の甲い山林おまめ糸川のあふりてさべ

久逢の都へ遷さればかきらのあふりまよとまきこゑよとよるたきん

大伴宿禰像見歌三首

吾聞雨聲莫言刈薦之亂而念君之直香曾

わづきこゑかけてなひいそかかごのえされぬあまみまがたごめぞ

かりごの柱何たごのこもて人のいのみちをなまげとほりまうもまご

まもまら集申正香よももさるたごのこかきつたもくづみのまもぞの

ふすこつたれまごのこかきつたもくづみのまもぞのまもぞの

まごのこかきつたもくづみのまもぞのまもぞのまもぞの

まごのこかきつたもくづみのまもぞのまもぞのまもぞの

春日野雨朝居雲之敷布二吾者意益月二日二異二

かきつたもくづみのまもぞのまもぞのまもぞのまもぞの

まもぞのまもぞのまもぞのまもぞのまもぞの

一瀬二波千遍障良比逝水之後毛将相今爾不有十方

いそはるはちしきさういゆさづの乃もあひてんいまなむも

まもぞのまもぞのまもぞのまもぞのまもぞの

大伴宿禰家持到娘子之門作歌一首

如此為而哉猶八将退不迹道之間乎煩參來而

かきつたもくづみのまもぞのまもぞのまもぞのまもぞの

まもぞのまもぞのまもぞのまもぞのまもぞの

まもぞのまもぞのまもぞのまもぞのまもぞの

河内百枝娘子贈大伴宿禰家持歌二首

彼都波都爾人乎相見而何將有何日二箇又外二將見
はつふひとをあひみくいはれんいづれのひのまふとふみひ

まふとふみひとをあひみくいはれんいづれのひのまふとふみひ
ついでにまふとふみひとをあひみくいはれんいづれのひのまふとふみひ

夜干玉之其夜乃月夜至于今日吾者不忘無間苦思念者
ぬだるまのそのよのつとよまがでよされかわけれどもわくくわく

その夜乃ハ神てまくくわく

巫部麻蘇娘子歌二首 巫部宿禰の所

吾背子乎相見之其日至于今日吾夜手者乾時毛太志
わがせこいあひみくそのひをまがでよわけりていさよまな

その日よつとをあひみく

枿繩之永命乎欲苦波不絶而人乎欲見社

たなはのちづきいのちとほつとくくくくくくくくくくくく

たなはのちづきいのちとほつとくくくくくくくくくくくく

あれとらえ

大伴宿禰家持贈童女歌一首

葉根縵今為妹乎夢見而情内二意度鴨

はねつらいままきいもいもいもいもいもいもいもいも

はねつらいままきいもいもいもいもいもいもいもいも

まきいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも

いもいもいもいもいもいもいもいもいもいも

いもいもいもいもいもいもいもいもいもいも

童女來報歌一首

葉根護今為妹者無四乎何妹其幾許意多類

はねのづゝいまはいかになるぞとづねのひあふこころいしたる

とらふていふはなほのあまのこころをいふはなほのあまのこころ

こればあふのこころをいふはなほのあまのこころをいふはなほのあまのこころ

あふのこころをいふはなほのあまのこころをいふはなほのあまのこころ

あふのこころをいふはなほのあまのこころをいふはなほのあまのこころ

粟田娘子贈大伴宿禰家持歌二首

思遣為便乃不知者片境之底曾吾者意成爾家類

おもひ遣ふはなほのあまのこころをいふはなほのあまのこころ

おもひ遣ふはなほのあまのこころをいふはなほのあまのこころ

おもひ遣ふはなほのあまのこころをいふはなほのあまのこころ

おもひ遣ふはなほのあまのこころをいふはなほのあまのこころ

おもひ遣ふはなほのあまのこころをいふはなほのあまのこころ

おもひ遣ふはなほのあまのこころをいふはなほのあまのこころ

復毛将相因毛有奴可白細之我衣手二齋留目六

またおもひ遣ふはなほのあまのこころをいふはなほのあまのこころ

またおもひ遣ふはなほのあまのこころをいふはなほのあまのこころ

またおもひ遣ふはなほのあまのこころをいふはなほのあまのこころ

またおもひ遣ふはなほのあまのこころをいふはなほのあまのこころ

豊前国娘子大宅女歌一首

夕闇者路多豆多頭四待月而行吾背子其間雨母将見

ゆふやみはなほのあまのこころをいふはなほのあまのこころ

ゆふやみはなほのあまのこころをいふはなほのあまのこころ

ゆふやみはなほのあまのこころをいふはなほのあまのこころ

安都麻娘子歌一首

安都麻氏子

三空去月之光二直一目相三師人之夢西所見
みそらゆめつきのあかりのいさよふしとあひまゝいよのいさよふし

丹波犬娘子歌三首

丹波大の下女のまゝ

鴨鳥之遊此池雨木葉落而浮心吾不念國

かものあそびのいけのいはるるはあはれうらみのこころをわすれ

味酒呼三輪之祝我忌杉手觸之罪歟君二遇難寸

あじさいのいけのいはるるはあはれうらみのこころをわすれ

あけとけのいけのいはるるはあはれうらみのこころをわすれ

垣穗成人辭聞而吾背子之情多由多比不合頃者

かきくちのいけのいはるるはあはれうらみのこころをわすれ

あけとけのいけのいはるるはあはれうらみのこころをわすれ

大伴宿禰家持贈娘子歌七首

情爾者思渡跡縁乎無三外耳為而嘆曾吾為

あけとけのいけのいはるるはあはれうらみのこころをわすれ

千鳥鳴佐保乃河門之清瀬乎馬打和多思何時將通

あけとけのいけのいはるるはあはれうらみのこころをわすれ

大和の佐保の娘のいけのいはるるはあはれうらみのこころをわすれ

獨ヲ將
ニ誤感
ハ感誤

夜晝云別不知吾戀情蓋夢所見寸ハ

よるしよふいふわきうららけのこころをいふはべりしとてふまきや
こころはわらわく

都禮毛無將有人乎獨念爾吾念者感毛安流香

ついでにあふんいふとかがいひまこれハ夢のぼりびくもいふ

はれうあふんはまよつてくちん人もいふく獨々本將感毛一

わらわくぬつ感ハ感の信なご一こハまじりあううハりよごうひ

字チニ感ハ憂也と云

不念爾妹之咲憊乎夢見而心中二燎管曾呼留

わらわぬふいひのあましをいひあふんこころのをもいひつづかせる

あふんいふんがまよふん一こころはまじりあううハりよごうひ

丈夫然念流吾乎如此詩三禮二見津禮片思男責

情ヲ誤
ニ誤

まらうしをまらうわれをかくばらうとみつれまつれかこひとせん

これと我らうしをいふまらわれとわれやわらうてあるまらうと

也の語の紀ハ瀛とみつれと別とみつれの語を責ハせんの句ハ

惜しむと寒とせんの句を責ハせん

村肝之情摧而如此詩余意良苦乎不知香安類良武

むらきものこころはけかたのあわがこころとてむらきものこころ

村肝の物肝情とて於後一あふんはまじりあううハりよごうひ

獻 天皇歌一首 誰の歌きものもこれか或は上郎女の前

とせらばわらわく天皇は二こころをいふくこころはみえはるのあわら

くも作保の山もあふんはまじりあううハりよごうひ

郎女空平へまらうしをいふまらわれとわれやわらうてあるまらうと

のあや

足引乃山二四居者風流無三吾為類和射乎害目賜名
あびきののやまのなれぬあびのこわらむとてあひのこわらむとて
何ぞあひのこわらむとてあひのこわらむとてあひのこわらむとて

大伴宿禰家持歌一首

如是許意乍不有者石木二毛成益物乎物不思四手
かたはのこゝろいつあふらむとていふまゝのなまらまゝのこゝろいつあふらむとて

本の心改よりいふ情なきる本よみく物おもひてあらんこと

大伴坂上郎女後跡見庄贈賜留宅女子大嬢歌一首并短歌

常呼二跡吾行莫國小金門雨物悲良爾念有之
せこよふとわづめのたもくふをわらふとよものかなしうらふねまへ

吾兒乃刀自緒野干玉之夜晝臨不言念二思吾身者瘦奴
わづめのとをぬぐもよのよるひるといふ思持ふもわづみいれをぬ
嘆丹師袖左倍沾奴如是許本名四戀者古郷爾
たげくみかぞえぬれぬかたのやそもわらふとよものかなしうらふねまへ
此月期呂毛有勝益士
このつきごらもあつがまを

考世よりいふはる國とていふ呼は奥の國のとかちとては誤り
いふ安康紀事よおほまへとまをるもとねの訶那社加礙社は誤とて
金つみ人のまきてはち中よみかたにふらむとてあひのこわらむとて
十甲より二毛なる物あひのこわらむとてあひのこわらむとて
のこわらむとてあひのこわらむとてあひのこわらむとて
あひのこわらむとてあひのこわらむとてあひのこわらむとて

左場よりん坂上あまの宿を麻呂の妻にけり坂上里まをり
しむと見大嬢をばそ歌あめりてうづ流んの家へ梅を居るまき
まきく引世居ほのあまされがやちよのつるは流んの家也
阿大嬢とかくあまのまきくつる月久くはこふそをいふん
と

反歌

朝髪之念亂而如是詩名姉之戀曾夢雨所見家留

あまがみのゆいみだれてかぐさのちたねがこふれぞいんよみえたる
朝髪の花何なぬのちあぢしはねの姉のそめより寝れどもまはうや
まひりうあまこふれぞいんよみえたる宮まきまのあまこふれぞいん
とせぬりてゆいみだれてかぐさのちたねがこふれぞいんよみえたる
かぐさのちたねがこふれぞいんよみえたる

右歌報賜大嬢歌也 一本はねをまきくつる

獻 天皇歌二首

二寶鳥乃潜池水情有者君雨吾戀情示左禰

和名抄鵬和名野鳥和名小而好没水中也和名本は海鳥のとりての
こ池のゆくはく思をまきくつる月久くはこふそをいふん
まきくつる月久くはこふそをいふん
へのあま

外居而意尔不有者君之家乃池雨住云鴨二有益雄

よまふあていあまのまきくつる月久くはこふそをいふん
梅よまへまきくつる月久くはこふそをいふん
わらふと敷くまきくつる月久くはこふそをいふん

大伴宿禰家持贈坂上家大嬢歌二首

雖絶数年後
會相聞往來

萱草吾下紐雨著有跡鬼乃志許草事二思安利家理

わかれぬらぬのきつひまづけられぬきこくたつこひあまけり
萱草と書れぬまを長きこひの夜も鬼とわかれぬらぬらぬ
遠志と書れぬこひつづきこひの夜も鬼とわかれぬらぬ
何ぞと書れぬらぬらぬこひの夜も鬼とわかれぬらぬ
こひの夜もあまのきこくたつこひの夜も鬼とわかれぬらぬ
ぬらぬと書れぬらぬこひの夜も鬼とわかれぬらぬ
醜と書れぬらぬこひの夜も鬼とわかれぬらぬ
のちと書れぬらぬこひの夜も鬼とわかれぬらぬ
忘れ言ひぬらぬこひの夜も鬼とわかれぬらぬ
言のみと書れぬらぬこひの夜も鬼とわかれぬらぬ
忘れ言ひぬらぬこひの夜も鬼とわかれぬらぬ

人毛無國母有類吾妹兒與携行而副而將座

ひらきぬらぬあまのきこくたつこひの夜も鬼とわかれぬらぬ
くちもあまのきこくたつこひの夜も鬼とわかれぬらぬ
大伴坂上大嬢贈大伴宿禰家持歌三首
玉有者手二母將卷字鬱瞻乃世人有者手二卷難石
たまわぬらぬあまのきこくたつこひの夜も鬼とわかれぬらぬ
瞻ハセムものつづき

将相夜者何時将有乎何為常香彼夕相而事之繁裳

あまのきこくたつこひの夜も鬼とわかれぬらぬ
あまのきこくたつこひの夜も鬼とわかれぬらぬ
吾名者毛千名之五百名雨雖立君之名立者惜社泣

わづらふちかめいほもふもぬいもまきつたてをみそくたけ

まきつたてのいほもふもぬいもまきつたてをみそくたけ

まきつたてのいほもふもぬいもまきつたてをみそくたけ

又大伴宿禰家持和歌三首

今時有四名之惜雲吾者無妹丹因者千遍立十方

いまはりのあをくくもわれはなすいふよあてはちしひらきも

いまはりのあをくくもわれはなすいふよあてはちしひらきも

空蟬乃代也毛二行何為臨鹿妹爾不相而吾獨將宿

うつせみのよやもふゆくたあふとあいまあふもてしひらきも

うつせみのよやもふゆくたあふとあいまあふもてしひらきも

入主指ねとせんやとりんくうき長ある夜ニ移ぬんとりんくうき

入主指ねとせんやとりんくうき長ある夜ニ移ぬんとりんくうき

あまのこをくわすつらきこゝろの妻

吾念如此而不有者玉二毛我真毛妹之手二所纏年

わのおもひがごとくあふもたあまのまこころいもくうてふまこハせん

わのおもひがごとくあふもたあまのまこころいもくうてふまこハせん

同坂上大嬢贈家持歌一首

春日山霞多奈引情具久照月夜雨獨鴨念

かすがのまがたみしむもひきこころうてれつくとよれいもまもねむ

かすがのまがたみしむもひきこころうてれつくとよれいもまもねむ

かすがのまがたみしむもひきこころうてれつくとよれいもまもねむ

かすがのまがたみしむもひきこころうてれつくとよれいもまもねむ

かすがのまがたみしむもひきこころうてれつくとよれいもまもねむ

又家持和坂上大嬢歌一首

かすがのまがたみしむもひきこころうてれつくとよれいもまもねむ

念會
八保

月夜雨波門雨出立夕占問足下手曾為之行乎欲馬
つよむんかどいざらゆけむいあらうとぞせしゆのまくとほま

あつふはふみくはさあまあくとまあまのいりう言もあまハ
まのほまゆりまほふかんとらま

同大嬢贈家持歌二首

云云人者雖云若狹道乃後瀬山之後毛將念君

かあのかよひとりまわらももの乃ちせのやまの乃ちもあまんま

念會のほまは雨のいれ及とらん料の

世間之苦物雨有家良久意二不勝而可死念者

よのちものまきまのよあけらくしよえぞとあまきりハ

まのまのいよのちのまきまのよまきまのまきまのまきまのまきまの

せりつこ

手
後毛

又家持和坂上大嬢歌二首

後湍山後毛將相常念社可死物乎至今日毛生有

のちせやまのちもあましとあまらうまのまきまのまきまのまきまの

まのまのいよのちのまきまのまきまのまきまのまきまのまきまの

しりまかれまけ

事耳乎後手相跡懃吾乎今憑而不相可聞

このみとのちもあましとねもとらよわれとこのあてあまきりあか

言もあまのほまをんといひこれとこのあてあまきりあか

とん言も言後句不相妹可聞と不相有可同とらまんと一毛後

しりまかれまけ

更大伴宿禰家持贈坂上大嬢歌十五首

夢之相者苦有家里覺而搔探友手二毛不所觸者

多岐子いしむに於ては是れんあてせよちのあつてらんちかかきしてあは
ぬやくよきとんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん
生有代爾吾者未見事絶而如是何怜縫流囊者

いけるよびいしまでみぞこころをてかかおこしとらぬへさふさふは

こころをてかかおこしとらぬへさふさふは

吾妹兒之形見乃服下著而直相左右者吾将脱八方

わぎもこのがらみのころもさくらたがあままでわかれぬづめやも

意死六其毛同曾太何為二人目他言辞痛吾将為

こころをかかおこしとらぬへさふさふは

こころをかかおこしとらぬへさふさふは

こころをかかおこしとらぬへさふさふは

夢二谷所見者社有如此詩不見見有者意而死跡香

いぬあぶらみえさるあめがぼろりかみえどあはばはいてさねとの

いぬあぶらみえさるあめがぼろりかみえどあはばはいてさねとの

念絶和備西物尾中爾太何辛苦相見始兼

ねがひはらばむとのちたつてふたつこのこころあひみそめむじ

ねがひはらばむとのちたつてふたつこのこころあひみそめむじ

ねがひはらばむとのちたつてふたつこのこころあひみそめむじ

ねがひはらばむとのちたつてふたつこのこころあひみそめむじ

相見而者幾日毛不經乎幾許久毛久流比爾久流必所念鴨

あひみてはいくうまぬとこづもくさひさひさひさひさひさひさひさひさひさひ

あひみてはいくうまぬとこづもくさひさひさひさひさひさひさひさひさひさひ

如是許面影耳所念者何如将為人目繁而

かかたのちおのびのふおわらわらふいのあをせんいさなはいて

人々がては心のちよもつてくあうが、あく人めあうあうがるお
のうてはりいふもんとりて

相見者須臾意者奈木六香登雖念彌意益来

あひみてあまれこひがぎんうゝねのどいふこゝしあまのけを

ままんおんやんちんししとらや

夜之穂村呂吾出而来者吾妹子之念有四九四面影二三
湯

よのほころわづこゝれわむまこがおもへるこゝおまかげまゆ

おのけらうはまき流流がうらもくとおのけらうまもいぬらまらうこ

ほぐりぬのりぬぐもあまきのからうまゆまげがまらうらうと後若

まされがままほのぐまらうまゆまげがまらうらうと後若

穂村呂吾出而来者吾妹子之念有四九四面影二三

らげりうらうのまのーハゆ解のうらうらうらあともうらうらうら
うらうらうらうらうらうら

夜之穂村呂出都追来良久遍多数成者吾曾截焼如

よのほころいづつとらうらうらまのうらうらわづむまらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

似割 まんこもまらうら

大伴田村家之大嬢贈妹坂上大嬢歌四首

外居而戀者苦吾妹子宇次相見六事計為與

よらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

あやまらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

遠有者和備而毛有宇里道有常聞乍不見之為便奈沙

とがらふらびてあらんちとあつまつてみぬのぶら
まゝあつてあつた

白雲之多奈引山之高_二吾念妹乎将見因毛我母

きつものぶらびてあつた

大かゝりくといん床のふのぼつてあつた

けさハ仰ぎあつた

こいねつてあつた

孝十二まらのかぶつてあつた

よらつてあつた

何時爾加妹乎牟具良布能穢屋戸爾入将座

いのねつとあつた

孝十九むらうとあつた

まゝあつた

篠草 毛久良

右田村大嬢坂上大嬢并是右大辨大伴宿奈麻呂御之

女也卿居田村里号曰田村大嬢但妹坂上大嬢者母居

坂上里仍曰坂上大嬢于時姉妹諮問以歌贈答

大伴坂上郎女後竹田庄贈賜女子大嬢歌二首 神武紀

皇師立治之處是謂猛田武大和国十市郡竹田神社あり大嬢ハ家

おつた

打渡竹田之原爾鳴鶴之間無時無吾戀良久波

らわつた

おつた

おつた

あはれみ入るるをさきよめりしは、あはれみ入るるをさきよめりし

早河之湍雨居鳥之縁乎奈彌念而有師吾兒羽裳何怜
たやののせよおののせよとみおわひてあはれみはげとこいあはれ

あはれの湍よ居るをさきよめりしは、あはれみ入るるをさきよめりし
あはれみ入るるをさきよめりしは、あはれみ入るるをさきよめりし

紀女郎贈大伴宿禰家持歌二首女郎名曰

神左夫眩不欲者不有八也多八如是為而後二佐夫之家
牟可聞

かみぎぶといのちふさづいけしん
けふもといのちふさづいけしん
まねはくまをこいハ美大もろびておわよハ湍大もろびてハ
よふり、室ぞもハ也多ハハ多也ハ多とろいハ文字の後あはれハ

万解四下 廿六

よふり、室ぞもハ也多ハハ多也ハ多とろいハ文字の後あはれハ
とらふらいていそれなはなはしきとらんとけとせよらふとら

玉緒糸沫緒二搓而結有者在手後二毛不相在目八方

たまのを。あわをふよらう。むくれば。ありてのちも。いそ。ぐら。め。と。

あはれみ入るるをさきよめりしは、あはれみ入るるをさきよめりし
あはれみ入るるをさきよめりしは、あはれみ入るるをさきよめりし
あはれみ入るるをさきよめりしは、あはれみ入るるをさきよめりし
あはれみ入るるをさきよめりしは、あはれみ入るるをさきよめりし
あはれみ入るるをさきよめりしは、あはれみ入るるをさきよめりし
あはれみ入るるをさきよめりしは、あはれみ入るるをさきよめりし
あはれみ入るるをさきよめりしは、あはれみ入るるをさきよめりし
あはれみ入るるをさきよめりしは、あはれみ入るるをさきよめりし
あはれみ入るるをさきよめりしは、あはれみ入るるをさきよめりし
あはれみ入るるをさきよめりしは、あはれみ入るるをさきよめりし

大ととゆ

大伴宿禰家持和歌一首

百年爾老舌出而與余年友吾者不厭戀者益友

とせふおいといでよしはふれいふはげこいをまはるとし

よむハ齒おちるる老びのわりよきとよ物ほよよとわらへり

位くおみいふへりて空をいふよまハ老くもハ坊あつてもいひ

在久通京思留寧樂宅坂上大嬢大伴宿禰家持作歌一首

一隔山重成物予月夜好見門爾出立妹可将待

いとやまへたれるものつくよみかほさいでふらひものまつらん

一ま山ハ地多あはひ久途ハたをいと山一まへそふれハるをたはるハ

るてはるるハ心少くはるるはらぶるやとくおひのまさと月夜よと

妹ハ一よまなく待つらわんとく可ハ待べし

藤原郎女聞之即和歌一首

坂上大嬢は婿れすとやろくと大嬢の心といひいふてよめと

路遠不来常波知有物可良爾然曾將待君之目乎保利

みちとわることとよわれるものかろふ志のそまつらんきそみぶめをほわ

おろしハおなづあふあづがハさざとりよは回ドらとわりハおっハ

こころをわたりて

大伴宿禰家持更贈大嬢歌二首

都路乎遠哉妹之比来者得飼飯而雖宿夢爾不見来

みやこちとさやみやいものこのころはうけひてぬれどいめよみえこぬ

都ハ久途のよえとやみやハ遠さやえ沖武紀祈とらけいハ言ハ

行こよの古後ハ奉三ま十二けいの海ハ飼飯とあまごに何ハ言ハ

かなづとまをいふハよわてぬれどおほの遠きあまを妹がまよ

全二下
脱字

又さすもの

今所知久邇乃京爾妹二不相久成行而早見奈

いささかたのこのみやこよしも小あづかいしうくちあわぬゆきとてやれ

を新よはゆめをうりつと久途のきよ屋くた京よ妹とるめをく

久堅之雨之落日乎直獨山邊爾居者鬱有来

大伴宿禰家持報贈紀女郎歌一首

いさかのあめのあるいそたひいとやまばよをいづせかきけと

大伴宿禰家持從久邇京贈坂上大嬢歌五首

人眼多見不相耳曾情左倍妹乎忘而吾念莫国

いとあぢやふあめをるのみぞそるまいもわされてわのもなき小

いよく妹とゆめいわりんやとよまをくめんやとつとくしり

後つるこも

偽毛似付而曾為流打布裳真吾妹兒吾爾戀目八

いつそふつまてをさるうつしうまをわきもこわれふこいめや

うつくハ現又ハ頭の子のをまけけしとくまよ多とをまハお

らどとま十一偽ハ心付てをさるいつとらりそぬ人さる人のま

むらとらえ

夢爾谷將所見常吾者保杼毛友不相志思諾不所見武

いめふまみえりわれハ保けしあひいをねがうへみえさうん

保けしハ保けしとてあつらふ母保の湯をハ保ハ保とあつら

保といふと保けしと保けしと保けしと保けしと保けしと保けしと

りよしと保けしと保けしと保けしと保けしと保けしと保けしと

よえゆるとら保けしと保けしと保けしと保けしと保けしと保けしと

志ハ者の信ハ者ハ相思者ト下上又信ハ者ト下上ハ
 事不問木尚味狭蓋諸弟等之練乃村戸ニ所詎来
 百千遍戀眩云友諸弟等之練乃言羽志吾波不信
 万解四下 廿九

万解四下 廿九

考

大伴宿禰家持贈紀女郎歌一首

鷄鳴故郷後念友何如裳妹雨相縁毛無寸

うつらなくもよけきとゆおもへしなむぞともあふよしなむ

うつらなくもよけきとゆおもへしなむぞともあふよしなむ

紀女郎報贈家持歌一首

事出之者誰言雨有鹿小山田之苗代水乃中與杼雨四手

ことごとくたごともなるをよまほめなむらうづのたのよとあて

うめつとせやうけがやそこよういゆりて即そこのオホと

うめつとせやうけがやそこよういゆりて即そこのオホと

うめつとせやうけがやそこよういゆりて即そこのオホと

大伴宿禰家持更贈紀女郎歌五首

吾妹子之屋戸乃芭子見雨往者盖從門將返却可聞

わぎここのやのまのまことみよゆをけがらふもかへらん

と芭子よりあはぬと雨のあまてことこれ

打妙爾前垣乃酢堅欲見將行常云哉君乎見雨許曾

うつしよまがまのまがくみまほゆんといやまをみま

うらとハむまきんゆんといやはゆんといをやとのことよく

のまをらんしてはよあはれやまハ君とみよをゆるれと

板盖之黒木乃屋根者山近之明日取而持將參乘

いづまのくろきのやねまもちりあやとらとてむらてま

遷都のけるれはあ送るるもけらるへまは皮のけるとは

用ふと後紀神龜元年十一月太政官奏言と其板屋草舎中古

遺制難營易破といふもあれはまははも板やねく室を取の上

和ヲ知
ニ誤

伐のそけいさうあはもるさうとらとてむらとて

黒樹取草毛刈尔仕月利勤和氣登將譽十方不在

くろきとらしかりつづのめとまきわけがめんといわ

一云仕登母

和とと本知も誤りさうとらとてむらとて

いそハ紀ハ勤の字と訓ハ後紀天保勝宝二年三月東人等賜勤

臣姓ともく同キ伊藤志臣東人といふことまハ君が奴のごとく

つとえれは女よとてまらとてほららとていれとて地れとて

たこそハあまはつとてまらとて

野干玉能昨夜者令還今夜左倍吾乎還莫路之長乎呼

ぬかたまのよえかへらこよいとれをといれみものながてを

ちよハもるさうとらとてむらとて

紀女郎叢物贈友歌一首女郎名曰小鹿

風高邊者雖吹為妹袖左倍所沾而刈流玉藻鳥
かせりうへひふふなれいもつめそぞきぬれてかれるたまもぞ

遠い海をへて、鳥は馬の便なり、妹は女名をうらむるをさるるにさるるに

大伴宿禰家持贈娘子歌三首

前年之先年後至今年意跡奈何毛妹爾相難

をとりのささるるうらうらこころもぞとれどたごぞしゆふあひかき

まじりて遠つてゆくも、ちかきも、そとつてゆくも、まじりてゆくも、まじりてゆくも

まのこころをうらむるも、まのこころをうらむるも、まのこころをうらむるも

打乍二波更毛不得言夢谷妹之手本手纏宿常思見者

うつふはさしふしとていふまゝいぬまのたりとたまきぬとみだ

改まらぬまゝよ遠んといふまゝいぬまのたりとたまきぬとみだ

惜ヲ情
二誤

吾屋戸之草上白久置露乃壽母不有惜妹爾不相有者

わがどこのくさのへさるるくわつゆのいもいもいもいもいもいもいも

吾屋のやまのくさのへさるるくわつゆのいもいもいもいもいもいもいも

室をハ壽ハ身の傍に、みづかき、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた

まのこころをうらむるも、まのこころをうらむるも、まのこころをうらむるも

大伴宿禰家持報贈藤原朝臣久須麻呂歌三首

平宝字三年授授五位下藤原惠美朝臣久須麻呂後四位下

訓儒麻呂とてんぬ

春之雨者彌布落雨梅花未咲久伊等若美可聞

はるのあめはいやまきふるふるあめをれいもいもいもいもいもいもいも

あめを、まきふる、はるのあめを、まきふる、はるのあめを、まきふる、はるのあめを

あま、ま

如夢所念鴨愛八師君之使乃麻補久通者

いめのごとくわがゆゑのものをきりもみりあつたひのまねくがよむ

浦若見花咲難寸梅乎殖而人之事重三念曾吾為類

うらわのみにわがももきかすうらめとらきていよのそらみちもいぞわがする

又家持贈藤原朝臣久須麻呂歌二首

情八十一所念可聞春霞輕引時二事之通者

こころをおもひゆるすはるがきよきなむいとよきことごとくがよむば

又家持贈藤原朝臣久須麻呂歌二首

情八十一所念可聞春霞輕引時二事之通者

こころをおもひゆるすはるがきよきなむいとよきことごとくがよむば

春風之聲雨四出名者有去而不有今友君之隨意

はるかぜのおとあふてなはあけきよきいままうすまもまもまのい

凡のきとしくしきふとへていふしきまあはまうばあて君のいん

藤原朝臣久須麻呂來報歌二首

奥山之磐影雨生流管根乃勲吾毛不相念有哉

おくやまのいさひはあつるしづのねのねとこらとねあひきまなざれや

春雨乎待常二師有四吾屋戸之若木乃梅毛未含有

はるあめをまつとああらうわがどのわきのうめしはまぶふのい

ふりあめをまつとああらうわがどのわきのうめしはまぶふのい

春風之聲雨四出名者有去而不有今友君之隨意

はるかぜのおとあふてなはあけきよきいままうすまもまもまのい

凡のきとしくしきふとへていふしきまあはまうばあて君のいん

藤原朝臣久須麻呂來報歌二首

奥山之磐影雨生流管根乃勲吾毛不相念有哉

おくやまのいさひはあつるしづのねのねとこらとねあひきまなざれや

春雨乎待常二師有四吾屋戸之若木乃梅毛未含有

はるあめをまつとああらうわがどのわきのうめしはまぶふのい

ふりあめをまつとああらうわがどのわきのうめしはまぶふのい

萬葉集卷第四

Handwritten text in a vertical column, likely a list of poems or names, written in a cursive style. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side.

